

観光を考えるワークショップ 高田地域 開催記録

日時：令和7年7月31日（木） 19時00分～20時30分

場所：会津美里町役場本庁舎 大会議室

出席者：4名

事務局：5名

1. 開会

2. あいさつ

（産業振興課長）

本日のワークショップは、会津美里町第2次観光振興計画の策定に向けて町民の皆様から貴重なご意見をいただきたいと思います。

このワークショップの趣旨としましては、高田本郷新鶴それぞれの地域における特色や特性を皆様からご意見をいただき、どういった形で観光に活かしていけるのかというような発展的なご意見をいただきたいと考えております。

また、7月に実施した町民アンケートも提示させていただくので、アンケートの内容も折り込みながらご意見いただきたいと思います。

3. ワークショップ

①本日のワークショップの趣旨と本日のスケジュール 目標について

事務局より資料の説明、スケジュールの確認を行った。

7月に行ったアンケート調査の結果も共有した。

②グループワーク

始めに事務局のあいづまちづくりパートナーズ・阿部氏より会津美里町の観光の現状について説明した。

その後、以下の設問について発表をしてもらった。（10分間ずつ）

〈設問〉

- ・開催地域（高田）の、一番の推し観光資源（場所・イベント・食べ物・文化）は何ですか。
- ・あなたが考えるその理由、根拠は何でしょうか。
- ・そして、その観光資源が「バズる」（＝もっと有名になり、誘客すること）ためにはどうすればいいでしょうか。

③発表

(参加者A)

高田と言えば、伊佐須美神社かなと思う。ただ、近く買い物ができる場所がないとお金を落としてくれないので、高田インフォメーションセンターがある美里蔵を突き抜けて一つの大きなショップにすることも必要なのではないかと思う。

また、観光は体験型観光と交流型観光が流行ってくると思う。見るだけの観光は鶴ヶ城や大内宿には敵わないので、体験型観光として例えば、神社の禰宜さんになれるとか巫女さんになれるとか、風鈴づくりとか、御朱印を自分で書けますとか、ここでしかできない全国ではあまりやっていないことをやらないと美里町の発信ができないのではと思う。

あとは食べ物だと、高田納豆ソフトとか、高田梅ソフトとか、みしらず柿ソフトとかそういった特質の産品を六次化してPRに繋げていくといったような、地元の産品を商売に結び付けることを考えていかないとお金が落ちていかないかなと思う。

(阿部氏)

伊佐須美神社は2030年の再建に向けてさまざまな取り組みを行っている。観光客はもちろんであるが参拝者増やしたいとのことで、観光施策とか周りとの連携などを重視しているので、体験型観光といったところも含めて連携していきたいと思う。

(参加者B)

まず、伊佐須美神社ということで、やはり発祥の地ということで選ばせていただいた。

観光資源がどうやったらバズるかというのは、伊佐須美神社の入口に歴史の変遷とかが知れる看板があればいいかなと思う。観光で来ても、どういう歴史があるのかは分からないと思うので、看板があって直接知ることができるといい。

あとは、仁王寺と法用寺。この二つのお寺は徳一が絡んでいる。意外と知られていないと思うが、そういうお寺もあることを知れるのは観光客としてもいいことではないか。

どうしたらバズるのかというものは、スタンプラリーかなと思う。慧日寺や虚空蔵尊と一体してできればいいのではないかと思う。美里町の中でも寺社仏閣はたくさんあるので、それだけでもいいのかと思う。あと、雀林からの山並みが綺麗ななのでそれもPRしてはいいか。

(阿部氏)

伊佐須美神社も歴史で解いていくと、平安時代くらいから続いていて、伊佐須美神社ができたからこの辺に集落ができたと言われていることや、奥州二之宮、実は一之宮は棚倉にあるとか知られているようで知られていない歴史がある。そういったところも広域的に連携を取っていければと思うし、歴史を看板にして掲示するのはすごくいいなと思う。スタンプラリーの件も、美里町単体で行うのではなく、いろいろなところと連携して行っていくことはすごくいいなと思った。雀林からの風景も、高田や新鶴は会津盆地が見渡せる場所が結構あるので、それも一つの観光資源になるのではないか。

(参加者C)

高田地域の推しの観光資源ということで、私は三つ挙げさせていただく。一つ目は伊佐須美神社、二つ目は天海大僧正、三つ目は文殊院である。

伊佐須美神社については、「会津はここからはじまった」にも書いてあるとおりとても歴史がある。我々も普段生活している中で、初詣でも行くし、出産しても行くし、車を買っても行く。何らかの形で伊佐須美神社には行っている。美里町だけに留まらず、会津地域の中でも伊佐須美神社は観光の中では一番なのではないか。

バズるためには、参拝した後に何ができるか。街並みを歩く、食事ができる、泊まれる、買い物ができる、全国各地見ても有名な神社やお寺の周辺には門前町や門前仲町と呼ばれるお店がたくさんある。そこを歩くだけでわくわくするし、神社にたどり着くまでもに非日常を味わうことができる。伊佐須美神社周辺にもそういった門前横丁が必要である。

天海大僧正については、いろいろな説があるが美里町から生まれたこれだけの偉人はなかなかいないのではないかと。この方は、上野の寛永寺の話であったり、日光東照宮の話であったり、日本全体を見てものすごく貢献した方だと思っている。この庁舎もじげんホールと名前を付けられていて、町のキャラクターもじげんくんと名前を使わせてもらっているので、天海大僧正をもっと広めていきたいと思う。

バズるためには、美里町は天海大僧正の両親のお墓もあるので、天海大僧正を学べる場所が必要であると思う。そういった場所がないと、観光協会としてもどこまで天海大僧正を推していったらいいのかと疑問も感じる。なので、見れる場所、学べる場所が高田エリアに出来てくれば。

文殊院については、学問の神様であるのでやはり皆さん受験の時に来るし、天海大僧正も伊佐須美神社も関わっているのでやはり外せないと思う。

日本人は時代が変わっても神様仏様に縋る文化がある。なので、パワースポットのものを全面に出していけばいいのでは。

会津美里町は知らなくても伊佐須美神社は知っている。伊佐須美神社はどこにあるのかとなると会津にあるという回答になると思う。伊佐須美神社は会津美里町にあるというところまでには至っていないと思う。今いる我々は 400 年以上の歴史が経っているものに縋って、伊佐須美神社を利用して町おこしをさせていただいている。であるならば、我々は 400 年後に何を残せるのか。ここから単純に 800 年後も伊佐須美神社に縋って生きているのか。仮に美里町が無くなっても、伊佐須美神社はあるし、天海大僧正も残るし、文殊院も残っていると思うので、それが観光資源になるのではないかと。

(阿部氏)

確かに地蔵信仰、神社信仰はすごく根強い観光資源である。位の高い神社がこの町にはあるので、伊佐須美神社、文殊院、天海大僧正を核にして観光振興をしていかなければならない。

(参加者D)

まず一番に、私も伊佐須美神社である。やはり神様にお祈りすると心が落ち着くかなとそういう気持ちがあるので、伊佐須美神社はどこに行っても誇れる神社だと思う。また、帰省した時、親戚が来た時には必ず案内するところも伊佐須美神社になっている。それに加えて宮川沿いの風景とトリムコースも欠かせないいい場所であると思う。

あと、5月の田植えが始まる頃に蓋沼森林公園から見る高田地区の風景はかけがえのない自然の風景だと思う。これも全国から問い合わせが来ているが、一瞬のシャッターチャンスのために何時間も電車を待ちながら、ああいう風景を見る、撮ることはかけがえのない時間だと思う。

次に伝統的なお祭りとして、御田植祭、俵引き、文殊祭は私は大好きなので外せないと思う。あと食べ物についてだが、ここでしか取れない高田梅、みしらず柿これも大事なものだと思う。

次の二番のなぜそう考えるのか、根拠は何かについては、伊佐須美神社は会津発祥の地とされる神社なのでどこに行っても誇れる神社だと思う。そのほかに宮川の風景や蓋沼森林公園はやはり自然が豊かで癒されるということである。食べ物については、高田地区でしか取れない食べ物これはとても重要なものであると思う。

最後の三番については、先ほど話が合った体験型の観光というものに親子で参加していただくことがとても大事ではないかと思う。

子どもの人数が少なくなる中、親も子どもと一緒に何かできる体験は大事なことだと思う。高田梅を漬けるとか、みしらず柿と一緒に探すとか、そういうことをすることによって子どももこういうことが親と一緒にやったことなんだと後々まで続く食べ物、保存食になるのではないかと思い、親子体験型を選んだ。

(阿部氏)

宮川もトリムコースも蓋沼も私が小さい頃に散々遊ばせていただいた場所である。実はそういう私たちが小さい頃に遊んでいた場所が隠れた観光スポットになったりする。

また親子での体験という話が合ったが、親子をターゲットとすれば、子どもが参加すれば親も参加するので、非常に有効的な手段の一つであると思う。

皆さんからお話しいただいて、高田地域ではやはり伊佐須美神社が皆さん共通して思っているところなのかなと思う。そこにプラスして、普段地元の住民の人たちが目にしているような風景とかが観光資源なのではといったような話であったかと思う。

次に高田地域以外のおすすめを教えてください。

〈設問〉

- ・開催地域以外（本郷、新鶴）の、一番の推し観光資源（場所・イベント・食べ物・文化）は何ですか。

- ・あなたが考えるその理由、根拠は何でしょうか。
- ・そして、その観光資源が「バズる」（＝もっと有名になり、誘客すること）ためにはどうすればいいのでしょうか。

（阿部氏）

それではDさんから発表をお願いします。

（参加者D）

私は向羽黒山城が推しである。3日前ほどにガイドさんをつけて5時間かけて登ってきた。ここは何と言っても歴史があり、壮大な風景で登ると力を貰える。

バズるには、動画、雑誌、テレビでの情報発信が大事だと思う。また、地域の人でもこの山魅力やどういう山なのかを知らない人が多く、アスレチックの山、公園だけの山と見る人が多い。私もその一人であったが、一時的なものではなく日常的に地域の人に山城の魅力を地元の人から知ってもらうことが大事なのではないかと思う。小さい頃から山に親しんでもらい、遠足や学年行事で毎年毎年山に登ってここにはいい山があるんだということを地域の人に知ってもらいたいと思う。

（阿部氏）

向羽黒山城は、磨けば本当に強い観光資源になると感じているので、力を入れていきたいと思う。

（参加者C）

私も国指定史跡で続百名城に選定されている、向羽黒山城がイチオシである。

理由は、観光協会としても日本最大級の規模であるということでPRしているし、会津が一番勢力があった時代のお城であるということを会津の方、全国の方に知っていただきたい。推しとしては、意向が見れる、そしてロケーションが素晴らしいし、一の曲輪の入口まで車で行くことができる場所である。各所に車で行って、人それぞれの時間とレベルで散策ができる珍しい山城である。この会津に外からいろいろな素晴らしい文化や物を持ってきた山城であり、当時本郷一帯は城下町であったという話もあるので、そういったところを含めて皆さんにPRして少しでも認識してもらえたらと思う。

今の会津の観光は負けの美学御涙頂戴なので、そろそろその他の観光資源にスポットを当てるタイミングに来てるのではないかと感じている。

また、どうしてこの山城や天海大僧正をそこまで地元の方が知らないかというと、会津の歴史家たちが白虎隊や戊辰戦争ばかり研究していた結果だろうと言われている。なので、後世に残していくためにはどうしたらいいかを今いる我々、歴史家、行政の力を含め考えていかなければならない。そのためには SNS や紙媒体でそれぞれの年代に沿った情報発信をする

必要がある。あとは、プロや影響力を持っている方を頼らざるを得ない。例えば映画撮影で使ってもらったり、音楽家のプロモーションビデオなどで山城や美里町の観光資源をうまく使ってもらいたい。それを探している人たちに、この素晴らしい観光資源をどうしたら発信できるかを考えていかなければならない。

産業振興課さんの方でも復興庁の補助金を使いながら、月刊歴史雑誌に山城を掲載していただいたり、山城まつりに併せて合戦ゲームを開催したり、シンポジウムで著名人に講演していただいたりという動きを絶やさずに、それをもう一段、二段何かレベルアップして山城自体をアトラクション化していければと思う。本郷の山城付近は城下町として推していき、美里町は城下町と門前町があるところでPRしていけたらいいのではと思う。

(阿部氏)

向羽黒山城と鶴ヶ城は切っては切れない場所である。美里町は会津若松市からも近く観光客を引き込みやすいので、観光の環境整備をしっかり行っていきたい。

(参加者B)

私は新鶴の中田観音である。理由は、インパクトには欠けると思うがシカさんが参拝したゆかりの場所であるから。

バズるには、新鶴はワイナリーやブドウがあるので、シャーベットや干しブドウなどを買うことができる売店があればと思う。新鶴は車でワイナリーに行くくらいで、買う場所がない。動線ができていないと感じる。

(阿部氏)

美里町は3地域に分かれていて、三者三様の顔がある。歴史があり、新鶴はワイナリーと温泉があり、高田は寺社仏閣があり、本郷は山城があり、それぞれの地域を別な角度で楽しむ。このような町は他にはなかなかないのではないかと思います。どのように磨いて観光地化環境整備をするのかということに着眼点を置いて力を入れれば、会津観光の目玉の一つになる場所である。そういった目線でこれから計画の作り込みができればと思う。

(参加者A)

私は会津本郷焼を推したい。東北最古の焼き物の産地で、陶器と磁器両方ある珍しい産地である。それをPRしていくために、せと市は年に1回だが四季に渡る、年に4回ぐらい開催してもいいのでは。あるいは手び練りやろくろの体験もいいのでは。日本手び練り選手権みたいなことで、その場で一番上手い手び練りを造れるかというようなことをやっても面白いのでは。また、カフェなどで自分好みの本郷焼のお皿を選べるとか、自分で造った抹茶碗で山城のお茶会に参加できるのもいいのでは。蘆名盛氏の抹茶発祥の地ということで、お茶文化が発祥し、20回お茶会を開催しているがなかなかお茶文化が広がっていかない。美里

町に来たら、抹茶文化が広がっていてどこのお店でも抹茶を出してくれるみたいな町になってほしいと思う。

(阿部氏)

鶴ヶ城もそうだが、向羽黒山城とそれに伴う文化は一体として考えて売っていくことが、観光には必要なのではないかと思う。

今日は皆さんから貴重なご意見をいただきありがたい。聞けば聞くほど美里町は全国の観光地と肩を並べられるくらいの資源と立地を持っていると思うので、何とかこれを計画の方に入れ込み、今後も策定した計画を基に皆さんの力を借りながら実行していければと思うので、引き続きよろしくをお願いしたい。

4. その他

本郷地域で行うワークショップのお知らせを行った。

5. 閉会